

鎌倉～室町時代 塚にこめられた人々の祈り

⑪ 下宮野塚 (栗原市)

標高約50mの丘陵上で鎌倉～室町時代の塚が1基発見されました。塚の頂部と穴の中から大小さまざまな円礫が大量に出土しました。礫は遺跡外から意図的に集められていることから、見晴らしのよい地点に塚を築き、大量の礫を埋納することに意味があったと考えられます。



塚の中心からややずれた位置に1辺0.7mほどの方形の穴があります。



礫は最大で長さ20cmで、総重量は約115kgです。

直径6m、高さ0.7mほどの円形の塚で、周囲に幅1～1.5mほどの溝がめぐらされています。

中世山城の防御施設①



堀跡は最大で幅5m、深さ2.2mあり、断面形はV字状です。丘陵に入る沢を利用して造られています。

⑫ 小屋館城跡 (気仙沼市)

【復興調査】三陸沿岸道建設事業

室町～戦国時代に現在の気仙沼市付近を治めた熊谷氏の一族による築城と伝わる山城跡です。

城跡北西部で、丘陵をたち切って造られた大規模な堀跡が発見されました。堀跡は城の西側を区画する空堀で、1度掘り直されています。

堀跡は北西側から敵が進入するのを防ぐために造られたと考えられます。



小屋館城跡全景(西から)

中世山城の防御施設②



遺跡遠景(東から)。遺跡は気仙沼湾の最北部、鹿折川の河口近くに位置しています。

⑬ 忍館城跡 (気仙沼市)

【復興調査】三陸沿岸道建設事業

標高約50mの丘陵上にある中世の山城跡です。城跡東端部で、堀跡、土塁跡、平場が発見されました。

堀跡は塹堀と呼ばれるもので、高低差の大きい急斜面に3条造られ、土塁跡は狭い平場を囲んでいます。

いずれも外部からの侵入を防ぐ目的で造られたものとみられます。



堀跡は大きいもので長さ14m、幅6.3m、深さ3.2mありました。

姿を現した中世の山城



高さ1mほど段状に掘削して平場を造っています。掘立柱建物の規模は縦4.6m、横1.9mです。

⑭ 湯原館跡 (七ヶ宿町)

標高約500mの丘陵上に位置する山城で、伊達政宗の命により1602年(慶長7)に再建されたと伝わります。

館跡南東部で平場、掘立柱建物跡、柱穴列跡、炉跡のほか、15～16世紀の磁器や陶器が発見されました。掘立柱建物跡や柱穴列跡は重複しており、3時期の変遷があったことがわかりました。

絵図や史料ではわからなかった再建前の湯原館跡について知る上で貴重な発見となりました。



近世の湯原館跡絵図(個人蔵)

江戸時代 仙台城内の酒造り屋敷



造酒屋敷跡は酒造りを行っていた権森家の屋敷地です。水貯めと考えられる掘り込みや溝跡が発見されました。

⑮ 史跡仙台城跡 (仙台市)

造酒屋敷跡は仙台城内で酒造りを行っていた場所です。

調査した場所は屋敷の南西部にあたり、絵図には湧き水を示す「此辺清水」と書かれています。

調査では水を管理したとみられる遺構が発見されました。

造酒屋敷の南西部では、絵図に記された湧き水を利用していた様子が見られます。



→ 写真の撮影方向

平成29年度 宮城の発掘調査パネル展

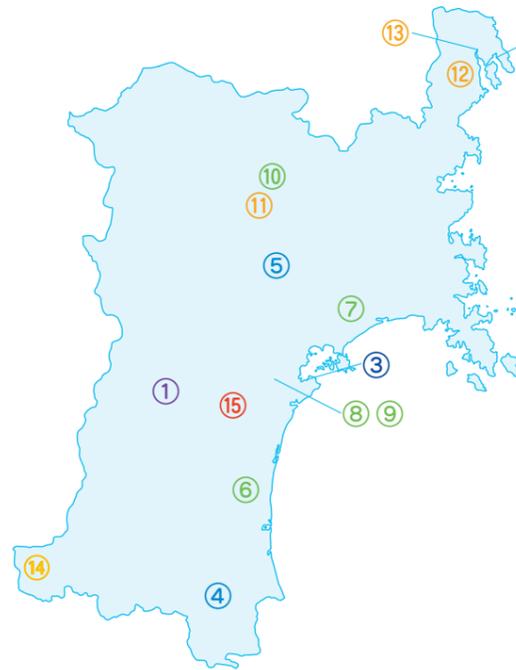
宮城県教育庁文化財課

宮城県には、旧石器時代から明治時代まで約6,200か所の遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産です。そのため、大切に保存し後世に伝えていくことは私たちの責務と考えております。

県教育委員会は、これらの保護と活用に全力をあげて取り組んでおりますが、やむを得ず開発に伴って姿を消す遺跡については、発掘調査を実施して記録に残しています。

このたび、平成29年度に行った発掘調査の中で、特に注目すべき成果のあった遺跡をパネルで紹介します。東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査の成果も取り上げていますので、この機会に遺跡に親しみ、文化財の保護に対して理解をいただければ幸いです。

今回の展示にあたって快く御協力をいただきました各教育委員会・機関に対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



時代	年代	日本の主な出来事	パネル番号
旧石器	約750万年前	アフリカで人類が誕生する	①
	約3.5万年前	後期旧石器時代が始まる	
縄文	約1万6,000年前	土器・弓矢が出現する	★②
	約5,000年前	三内丸山遺跡(青森県)で集落が営まれる	
弥生	紀元前400年頃	東北地方で米作りが始まる	③
古墳	紀元後300年頃	豪族が盛んに古墳を造る	④ ⑤
飛鳥	607年	推古天皇、小野妹子を隋に遣わす(遣隋使)	★⑥ ★⑦ ⑧ ★⑨ ⑩
	645年	大化の改新が起こる	
	710年	平城京(奈良市)に都を移す	
奈良	724年	多賀城が築かれる	⑪
	752年	東大寺の大仏が完成する	
平安	794年	平安京(京都市)に都を移す	★⑫ ★⑬ ⑭ ⑮
	869年	貞観大地震で多賀城が大きな被害を受ける	
	894年	遣唐使の派遣が停止される	
	1167年	平清盛が太政大臣となる	
鎌倉	1192年	源頼朝が征夷大将軍になる	⑮
	1274・1281年	文永・弘安の役(元寇)が起こる	
室町	1338年	足利尊氏が室町幕府を開く	★⑫ ★⑬ ⑭ ⑮
	1467年	応仁の乱が起こる	
安土桃山	1590年	豊臣秀吉が天下を統一する	⑮
	1600年	仙台城の築城始まる	
江戸	1603年	徳川家康が江戸幕府を開く	⑮
	1611年	慶長三陸地震津波で仙台平野が大きな被害を受ける	
明治	1868年	明治維新	⑮
	1876年	明治天皇が東北を巡幸する。	

★印は、東日本大震災の復興・復興調査

東日本大震災からの復興と遺跡調査(1)

復興事業の促進と遺跡保護の両立を目指して

東日本大震災の発生から7年が経過しましたが、甚大な被害を受けた沿岸市町では、現在も土地区画整理や道路建設などの大規模な復興事業や、被災した個人住宅の再建等が進められています。こうした復興事業の計画地に遺跡が含まれることが多くありますが、県では、被災地の一日も早い復興と地域のかけがえのない歴史的遺産(遺跡)の保護の両立に取り組んでいます。

◎復興事業に伴う発掘調査の進捗状況

復興調査は平成24年度から本格的に進められています。高速道路や鉄道移設、土地区画整理や高台移転に伴う大規模な調査は終了し、調査のピークは過ぎたものと考えられます。今後は、ほ場整備事業や県道改良事業に伴う調査が中心になると見込まれます。

事業別	試掘・確認調査							本発掘調査(着手時期)						
	対象	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計
住宅関連	67	29	19	12	4	1	2	3	2	14	2			21
道路・鉄道関連	87	16	11	10	6	10	34	15	8	6	2	1	4	36
ほ場整備(農地)	113		18	37	25	3	30			9	1	1	1	12
漁業施設関連	40		1	1	6	2	30			1	2	1		4
堤防・公園整備等	16		2	1	5	2	6							1
合計	323	45	51	61	46	18	102	18	10	30	7	3	6	74

復興事業と係わりがある遺跡数323。 → 試掘・確認調査は221遺跡終了。 → 本発掘調査74遺跡。(約1/3が本発掘調査へ)

*復興調査の実施にあたっては、発掘調査基準を緩和し、調査期間の短縮を図っています。

東日本大震災からの復興と遺跡調査(2)

三陸沿岸道路(復興道路)建設に先立ち、中世の山城跡を調査(気仙沼市忍館城跡)

防潮堤の復旧に先立ち、縄文時代の集落跡を調査(気仙沼市藤ヶ浜貝塚)

発掘調査の成果を一般公開(気仙沼市小屋館城跡)

被災した農地の再生に先立ち、古代の城柵跡を調査(東松島市赤井遺跡)

被災した農地の再生に先立ち、古代の掘立柱建物跡や道路跡を調査(多賀城市山王遺跡)

被災した農地の再生に先立ち、古代の駅家推定地を調査(岩沼市原遺跡)

協力(五十音順) 岩沼市教育委員会(原遺跡)、栗原市教育委員会(伊治城跡・下宮野塚)、気仙沼市教育委員会(藤ヶ浜貝塚)、七ヶ宿町教育委員会(湯原館跡)、七ヶ浜町教育委員会(東宮貝塚)、仙台市教育委員会(仙台城跡)、多賀城跡調査研究所(多賀城跡)、多賀城市教育委員会(山王遺跡)、東北大学大学院文学研究科考古学研究室(野川遺跡)、東松島市教育委員会(赤井遺跡)、丸森町教育委員会(長内遺跡)、湯原館跡調査団(湯原館跡) ホームページアドレスは、<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/bunkazai/>

発掘現場から 埋蔵文化財は、国や地域の歴史と文化の成り立ちを明らかにするうえで欠くことのできない国民共有の財産であり、また、これらを解明するうえで発掘調査は必要不可欠なものです。このため、文化庁では「発掘現場から 文化力」のロゴマークを作成し、広くロゴマークを推奨し活用することで、国民や地域住民に埋蔵文化財や発掘調査に対する正しい理解と協力を促進することを目的としています。背景のカラーは発掘調査にふさわしい茶系統を使用しています。

縄文時代

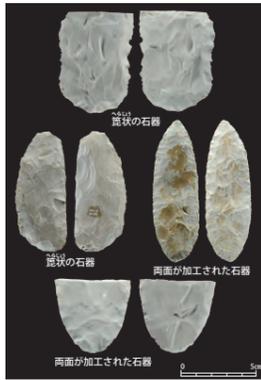
1万1,000年前の石器貯蔵穴



貯蔵穴は直径20cm、深さ15cmの円形で、88点の石器がまとめて貯蔵されていました。

①野川遺跡(仙台市)

広瀬川と青下川の合流点付近に立地する遺跡で、縄文時代草創期(約1万1,000年前)の石器を貯蔵した穴が1基発見されたほか、土器や石器が6,900点以上出土しました。当時の人々は季節の変化に応じて移動する生活を送っており、再びその場に戻ってきて石器を使うように貯蔵穴に入れたものと考えられます。



出土した石器

海辺の縄文集落



気仙沼湾を望む標高約8mの丘陵で竪穴住居跡が2軒発見されました。いずれも円形で、一部のみ確認しています。

②藤ヶ浜貝塚(気仙沼市)

【復興調査】防潮堤復旧事業

縄文時代中期(約5,000年前)の竪穴住居跡2軒と遺物包含層(ごみ捨て場)が発見されました。竪穴住居跡は丘陵上にあり、石を円形に並べた炉をもつものがあります。また、低地に形成された遺物包含層からは土器・石器や土偶が出土しました。海を望んだ当時の集落の暮らしぶりを知ることができます。



炉は長さ40cmほどの板状や棒状の石を並べて造られました。



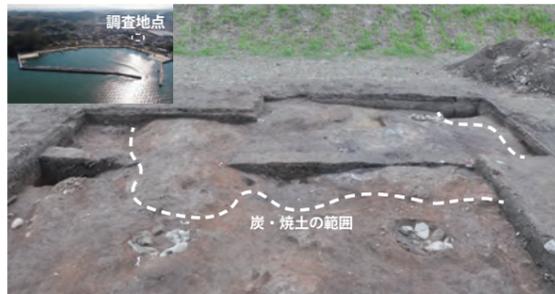
出土した遺物

弥生時代

弥生時代の塩作り

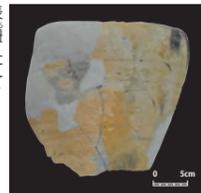
③東宮貝塚(七ヶ浜町)

現在の海岸線から約100m内陸に位置する遺跡で、弥生時代中期(約2,100年前)の製塩土器と製塩炉に伴う炭や焼土の広がりが見られました。製塩土器は平底の深鉢形で、炉に立てやすい形をしています。宮城県内で弥生時代の製塩跡が発見された例は少なく、貴重な発見となりました。



南北約6m、東西約5.5mの範囲に炭や焼土が広がっていました。土器に海水を入れて煮詰めた際の痕跡と考えられます。

製塩土器の表面には粘土紐を積み上げた痕跡が残っています。



土器製塩のイメージ図

古墳時代

火災にあった古墳時代の住居



竪穴住居跡1は一辺が3.9mの方形とみられます。黒く焼けた建材が残っています。

④長内遺跡(丸森町)

阿武隈川の北岸に立地する遺跡で、古墳時代前期(4世紀)の火災にあった竪穴住居跡4軒が発見されました。住居内からは、焼け落ちた建材とともに火災にあう直前まで使用されていた土器や砥石がまとめて出土しました。すまいに残された家財道具から、当時の暮らしぶりを知ることができます。



竪穴住居跡3からは完全な形の土器や砥石がまとめて出土しました。

北方地域との交流を示す琥珀



琥珀は長さ3cmほどで、未加工の状態で出土しました。

⑤団子山西遺跡(大崎市)

古墳時代中期(5世紀)の竪穴住居跡1軒が発見され、住居内から多くの土師器とともに琥珀が1点出土しました。琥珀は、岩手県久慈が主要な産出地と考えられているため、当時の大崎地域(古墳文化)と北方地域(続縄文文化)が交流していたことを示す貴重な発見となりました。



住居内から大量の土師器が出土しました。

奈良～平安時代

古代の駅家推定地



遺跡は阿武隈川の北岸に位置し、河川を利用できる水運の重要地点にあります。

⑥原遺跡(岩沼市)

【復興調査】被災ほ場整備事業

遺跡が所在する玉崎地区には、文献に出てくる「玉前駅家」(古代の駅)が存在すると推定されていました。調査では、飛鳥～平安時代の竪穴住居跡25軒、掘立柱建物跡、材木堀跡などが発見されました。また、碗などの当時の役所で使用された遺物も出土しており、律令国家が整備した駅家の可能性が高まりました。



竪穴住居跡や掘立柱建物跡が密集しています。

須恵器の碗。東海地方産のもので、凹んだ部分に水を溜め、平らな部分で墨をすって使いました。

多賀城城下のメインストリート



調査区遠景(南から)。南北大路は、陸奥国府多賀城の南側に広がる市街地のメインストリートです。

⑧特別史跡多賀城跡(多賀城市)

多賀城外郭南門跡から南に130m離れた地点を調査し、南北大路の東側溝を確認しました。東側溝は奈良～平安時代にかけて4回改修され、路面は土を盛って整地した上に造っていることがわかりました。南北大路の変遷や維持管理の状況を知る上で貴重な手がかりが得られました。

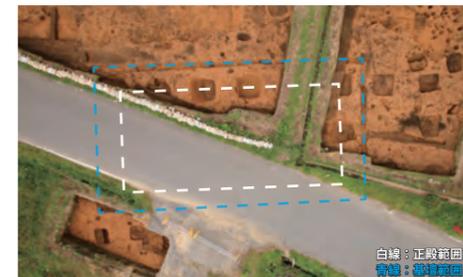


青線が奈良時代、赤線が平安時代の東側溝です。南北大路の幅は奈良時代は13～18m、平安時代は24～28mと推定されます。

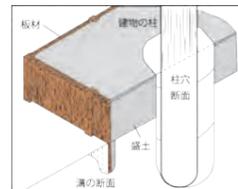
県内初の木製基壇を発見

⑩史跡伊治城跡(栗原市)

伊治城は8世紀後半に造られた城柵です。政庁の整備に先立ち正殿(政庁の中心的建物)の再調査を行ったところ、正殿は周囲よりも一段高く盛土された土台を板材を押さえた木製基壇の上に建てられていることが明らかになりました。木製基壇は県内初の発見で、伊治城の構造を解明する上で貴重な成果が得られました。



正殿全景(上が北)。正殿は東西15m、南北6mの大規模な建物で、木製基壇の大きさは東西18m、南北9mです。



木製基壇の模式図。基壇とは建物の土台で、建物を格式高く見せるためのものです。



正殿の柱穴断面。柱穴の大きさは縦・横約1.5m、深さ8mです。

発見された古代の材木堀跡

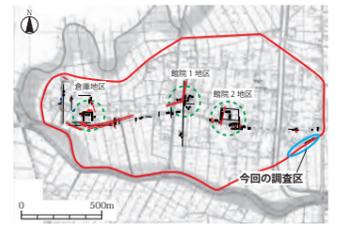


材木堀跡は長さ120mにわたって発見されました。幅40cm、深さ60cmの溝を掘って材木を隙間なく立て並べており、約600本の材木の基部が残存していました。材木堀の高さは3m以上と推定されます。

⑦赤井遺跡(東松島市)

【復興調査】被災ほ場整備事業

飛鳥～平安時代まで営まれた城柵です。今回の調査では遺跡の南東端で古代の材木堀跡3列が発見されました。材木堀跡はほぼ同じ位置で2回造り替えられており、長期間維持されています。材木堀跡は遺跡が立地する微高地の縁辺に造られており、遺跡の外側を囲む施設の一部と考えられます。



赤井遺跡全体図

上級役人が暮らす一等地



調査区遠景(西から)。東西大路は街並みの基準となる道路で、4つの調査区で確認されました。

⑨山王遺跡(多賀城市)

【復興調査】被災ほ場整備事業

山王遺跡は多賀城跡の南側に広がる古代都市です。東西大路に面した区画に掘立柱建物跡7棟を発見しました。これらの柱穴は、これまでの調査で発見されている国司館(上級役人の邸宅)の柱穴とほぼ同規模です。東西大路沿いの区画は都から派遣された上級役人が暮らす一等地になっていたと考えられます。



掘立柱建物跡の柱穴は1辺約1mで、東西大路から離れた区画の建物の柱穴と比較して大きいです。

用語解説

◆続縄文文化: 弥生～古墳時代に北方地域に展開した文化で、縄文時代に引き続き狩猟・漁労・採集を中心とする文化。 ◆城柵: 古代日本の東辺や北辺につくられた役所兼軍事施設。 ◆駅家: 都と地方を結ぶ道路に三十里(約16km)ごとに設置された施設。役人や使者に馬・食糧・宿舎などを提供した。